

12/22-28 #4 あわれみ深い人々は幸いである。彼らはあわれみを示され、あわれみを受けるからである。I.「『私は自分があわれもうとする者をあわれみ…』。ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることによるのでもなく、神があわれみを示されることによるのです」(ローマ9:15a, 16):A あわれみは、神の属性のうちで最も遠くに到達するものであって、神の恵みや愛よりも遠くに届きます:マタイ9:13 「私が望むのはあわれみであって、いけにえではない」...私が来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。1 私たちは自分の天然の状態によれば、神から遠く離れており、神の恵みに全くふさわしくありませんでした。私たちは神のあわれみを受けるのにふさわしいだけでした。エペソ2:4 しかし、あわれみに富んでおられる神は、私たちを愛してくださった彼の大きな愛のゆえに。2 私たちの不従順が神のあわれみに機会を得させます。神のあわれみは私たちを救いにもたらします。B 私たちの観念は、決意する者が決意して得ようとしたものを得て、また走る者が追い求めるものを得るということです:1 もしこのようであったなら、神の選びは、私たちの努力と労苦にしたがつたものになっていたことでしょう。2 その反対に、神の選びは、あわれみを示される神によります。私たちは決意する必要も、走る必要もありません。なぜなら、神が私たちをあわれんでくださるからです。3 私たちは神のあわれみを認識するなら、自分の努力に信頼することも、自分の失敗によって失望することもないでしょう。私たちのあわれな状態に対する望みは、神のあわれみの中にある。C 私たちは神の新約エコノミーにおいて神に仕えようとするなら、それが完全に、神の主権あるあわれみの事柄であることを認識する必要があります: ローマ9:15 なぜなら、彼はモーセに言っておられるからです、「私は自分があわれもうとする者をあわれみ、慈しもうとする者を慈しむ」。1 私たちは神の主権を認識するなら、神のあわれみのゆえに神に感謝するでしょう:a 「主権あるあわれみ」という表現が意味するのは、神のあわれみが完全に神の主権の事柄であるということです。b あわれみの器であることは、私たちの選択の結果ではありません。その起源は神の主権です。ローマ9:18 ですから、彼はご自分があわれもうとする者をあわれみ、かたくなにしようとする者をかたくなにされるのです。23 しかも、栄光へとあらかじめ用意しておられたあわれみの器に、彼の栄光の豊富を知らせようとされたとす

れば、どうなのでしょうか? c 神のあわれみは神の主権の中にあります。私たちに対する神のあわれみを説明するのに私たちが言うことができる唯一の事は、神が彼の主権の中で選んで、私たちに對してあわれみ深くあったということです。2 神の主権あるあわれみの中で、私たちの心は神に向けられています。私たちに対する彼のあわれみのゆえに、私たちは日ごとに彼を追い求めます。3 私たちは、自分たちにかかるあらゆることが神のあわれみの事柄であるということを見れば見るほど、ますます主の御前で私たちの責任を担うようになります。しかしながら、私たちが進んで責任を担うことでき、神のあわれみによります。4 神のあわれみのゆえに、私たちは彼の福音に応答しましたが、他の人は応答しませんでした。私たちは命としてのキリストについての言葉を受け入れましたが、他の人はそれを受け入れるのを拒絶しました。私たちは主の回復の道を歩みましたが、他の人は退いてこの道を歩みませんでした。5 神はご自身の回復に関して、ご自分があわれもうとする者をあわれみます。D ローマ9章は、あらゆることが神のあわれみにかかるといえるという原則を啓示しています:1 使徒パウロは、この原則をイスラエル人に適用して、彼らに起こったあらゆる事が神のあわれみによるものであったことを私たちに示しています。2 私たちが神のあわれみを見て、神のあわれみに明確に触れるときが、少なくとも一度はなければなりません:a この事柄に関して、私たちの目は開かれてあらゆることが神のあわれみにかかるていることを見る必要があります。b 私たちは、一度でこの事をすべて見ようと、ある過程を経過してそれを認識しようと、この事柄に触れた瞬間、感覚に触れるのではなく、事実に触れます。この事実とは、あらゆるもののが神のあわれみにかかるているということです。E 「ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」(ヘブル4:16):2:17 こういうわけで、彼はすべての事で、彼の兄弟たちのようにならなければなりませんでした。それは、彼が神にかかる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司となって、民の罪のために、なだめをなすためです。1 神のあわれみと神の恵みはいずれも、彼の愛の表現です。2 私たちがあわれな状態にあるとき、神のあわれみがまず私たちに届き、私たちを、神が彼の恵みを施すことのできる状態にもたらします。3 神のあわれみと恵みは

常に、私たちのものとなることができます。しかしながら、私たちは靈を活用し、恵みの御座に進み出て、あわれみを受け、恵みを見いだす必要があります。**F**父なる神はご自身の主権において、私たちをあわれみました。ですから、私たちは、父なる神の主権あるあわれみのゆえに、彼を賛美し、礼拝しなければなりません。**1**「私は今、あなたのあわれみが永遠に古くならず、常に新しいことを享受します。毎朝私に臨み、朝露のように潤いを与えます。何と甘いことでしょう、何と甘いことでしょう、心を尽くしてあなたのあわれみを賛美します。全心であなたのあわれみを賛美します」。**2**「父よ、あなたのあわれみとあなたの恵み、慈愛を、私はすでに味わいました。あなたのこのあわれみは、あなたの臨在と御顔をもたらします。あなたのあわれみのゆえに、私は今あなたにひれ伏して礼拝し、あなたのあわれみを賛美し、世々にわたって歌いほめたたえます」。

II.「あわれみ深い人たちは幸いである。彼らはあわれみを受けるからである」(マタイ5:7):**A**義であるとは、人が受けるに値するものを、その人に与えることですが、あわれみ深いとは、その人が受けるに値する以上のものを与えることです。**B**天の王国のために、私たちは義であるだけでなく、あわれみ深くある必要もあります。**C**あわれみを受けるとは、私たちが受けるに値しないものを受けます。**D**私たちが他の人たちにあわれみ深いなら、主は私たちにあわれみを賜わります。それは特に裁きの座においてです。**2テモテ1:16**どうか主が、オネシポロの家にあわれみを賜りますように。というのは、彼はしばしば私を新鮮してくれたし、また私の鎖を恥とも思わないで。**18**どうかかの日に、主が彼に主のあわれみを得させてくださいますように。彼がエペソで、どれほど多くの事で私に仕えてくれたか、あなたが一番よく知っています。**E**私たちは自分自身に対して義であることを学び、他の人たちに対してあわれみ深くあることを学ばなければなりません。

III.「父なる神と私たちの主キリスト・イエスから、恵みと、あわれみと、平安とがあなたにありますように」(2テモテ1:2):**A**使徒のすべての書簡の中で、1、2テモテが冒頭のあいさつで神のあわれみを含んでいます。**B**神のあわれみは、神の恵みよりも遠くまで届きます。**C**召会の堕落した状態の中では、神のあわれみが必要です。**D**このあわれみは、神の豊かな恵みをもたらし、どのような堕落を対処するのにも十分です。

IV.「あわれみを示さなかった者には、あわれみ

のない裁きが下されます。あわれみは裁きに打ち勝つのです」(ヤコブ2:13):**12**自由の律法によって裁かれる者として、そのように語り、またそのように行ないなさい。**A**貧しい兄弟を軽んじることは、あわれみがないことです。**B**貧しい兄弟をこのように軽んじる人はだれでも、キリストの裁きの座の前に現れるとき、あわれみを受けません:**1**私たちが主の御前に来て裁かれるとき、彼が私たちにあわれみを示さないのは、私たちが、私たちの兄弟にあわれみを示さなかつたからです。**2**私たちはあわれみを示す必要があります。なぜなら、あわれみは裁きに打ち勝つからです。**3**私たちは今日私たちの兄弟をあわれむなら、主の裁きの座で主からあわれみを受けます。

V.私たちは主のあわれみのゆえに、主の御前にひれ伏し、主を礼拝すべきです:**A**私たちは主のあわれみのゆえに主を礼拝すればするほど、ますます引き上げられます。**B**神が私たちを選び、私たちをあらかじめ定め、私たちを召し、私たちを彼の回復の中に置いてくださったことは、何というあわれみでしょう! **C**将来のために、私たちは自分自身に信頼するのではなく、彼に信頼し、彼の驚くべきあわれみに信頼します。**D**私たちが主と共に前進することは、私たちが決意したり走ったりすることによる事柄ではなく、神のあわれみによる事柄です。**E**神のあわれみはすばらしい方法で働きます。

証私は幼い頃から召会生活の中で育ち、召会から離れることもありませんでした。特に悪目立ちもせず、外面では真面目に召会生活を送っていました。自分は真面目で能力があるので召会生活を送ることができていると思っていたので、主の主権とあわれみを認識することは全くありませんでした。

しかし高校受験や大学卒業後の進路を決めるにあたって、自分には人より優れた能力があるわけでもなく、主の道を選ぶ力もなく、主を愛する事でさえ多く欠けている事を初めて思い知りました。主の御前で自分がそのように堕落した者であるのに、主は兄弟姉妹の顧みを通し絶えず召会生活を送るように私を導いてくださった事を今も度々思い出します。詩歌355番の2節「われのこのようなものを主はえらばれた。それに応じないとは、なんたること! 犠牲などと言うまい、どんな代価も。主の軍隊に入る、なんたる権利」を歌った時、主のあわれみによる導きを思い出し、感動し涙が出てきました。主のあわれみが私にまで及んだ事のゆえに、主に感謝し賛美します!